



ジョージ・セル＝クリーヴランド管弦楽団 滋味にあふれる名演奏

吉田秀和

クリーヴランド管弦楽団の演奏というのは、こんどはじめてきいたけれども、本当に良かった。合奏の技術という点では、これ以上は望めないし、望む余地もなからうという感じだった。各楽器、楽器群の間のバランスの良さと、楽器の入りかぶり、合奏の終り方、消え方まで完全に一つになっているのが、

ほんとにいいテープは
 奏者のハートを持つ

Scotch ダイナレンジ

(ノイズ・ハイアウト・フリ)

演奏の音と再生音を同じものに…

この究極目標に到達したのがScotchダイナレンジ。

聴く者に、演奏者のところまで、

忠実に伝えてくれる、テープの名品です。

Scotch自身を「国際標準規格」に決定させた

その音質特性、物理特性、磁気特性は、
 ずば抜けています。

もちろん超高域から超低域まで、録音特性は

まったく均質、感度も鋭く、

特定の音域を強調したり粉飾したり

することはありません。

あくまでも原音をそのまま録音。

S/N比はスタンダードより5dbアップし、

ひずみ・ノイズも消え去りました。

これを超Hi-Fi。

あの時の感動をもう一度呼び起こすテープ。



■No.202 5"=183m ¥* 930 7"=366m ¥1,670
 ■No.203 5"=274m ¥1,290 7"=549m ¥2,350
 ■No.203 LHR 7"=366m ¥1,500

世界で最も有名な音質製品

Scotch[®]

録音テープ

住友スリーエム株式会社 3M

磁気製品営業部

〒107 東京都港区赤坂1-21-1 スリーエムビル
 107 TEL 403-1111 大代表
 東京・大阪・名古屋・福岡・広島・長



Scotch® 印及びタータンチェック・デザインは米国3M社の
 登録商標です。



上=オーケストラを完全には手中におさめたセル 中=指揮中のセルは厳格そのもの 下=セルも「エロイカ」では以前の演奏からは考えられぬ熱気あふれる名演をきかせた

セルの音楽はこの管弦楽団のなかに全面的に実現しているはずだということになるのだから。

セルの音楽は、ハッタリのない、まじめなものだが、そういう指揮者なら世界にはほかにもまだ何人もいる。彼の音楽には手堅い輪郭と、がっちりした構成をもち、一点のどこかもしない論理に支配されたものだが、それは、いまクリューランド管弦楽団の特徴でいったように、音色の芸術であるよりは単彩の線のそれであり、微妙なニュアンスのそれであるよりは力強いデッサンの芸術であるという事実と、根本的に同じことを別の面から見たものにすぎないといえよう。

要するに何のケレンもごまかしもない、まことに堂々とした芸術であり、誰だつてこういうものには尊敬しないわけにはいかない。

こんどの日本公演で、私がきいた曲目でいえば、ウォルトンの《ヒンデミットの主題による変奏曲》という曲は、私ははじめてきいたものだし、曲そのものにはあまり魅力を感じなかったが手堅い、しかもそれなりにいろいろと変化の多いよく出来た音楽だったがこの演奏もとても良かった。

セルは、この曲の初演だかアメリカでの初演だかそうだが、よほど愛着と自信があるのだろう。それから、ベートーヴェンの《エロイカ》とモーツァルトのト短調第四十番交響曲がすばらしい出来だった《エロイカ》の堂々とした演奏とモーツァルトの微妙さは、私は、セルの最良のものを感した。



セルはクリューランド管から理想的なオーケストラの音をひき出した

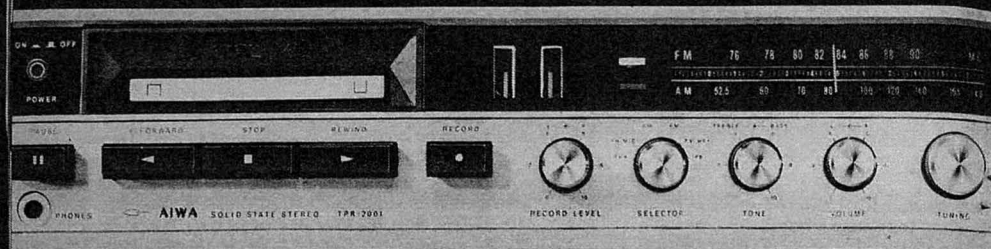
きいていて良くわかるのだから、あきれてしまう。それにいろいろな楽器間の音色もよくとけあう。

こういう管弦楽が一朝一夕にでき上るはずはないので、事実、二十何年間か、この常任指揮者としてこれを受けもつてきたジョージ・セルは、日本のどこかのインタビューで「楽員の一人一人まで自分がつれてきたのだ」といったそうだが、そうなるともう、文字通り彼がひとりでつくりあげたオーケストラといった良いことになろう。これはどの管弦楽団を創ったという、その一歩だけだつて、セルは世界の名指揮者の歴史に名を残すにたる存在であるといつてよいと、私は思う。

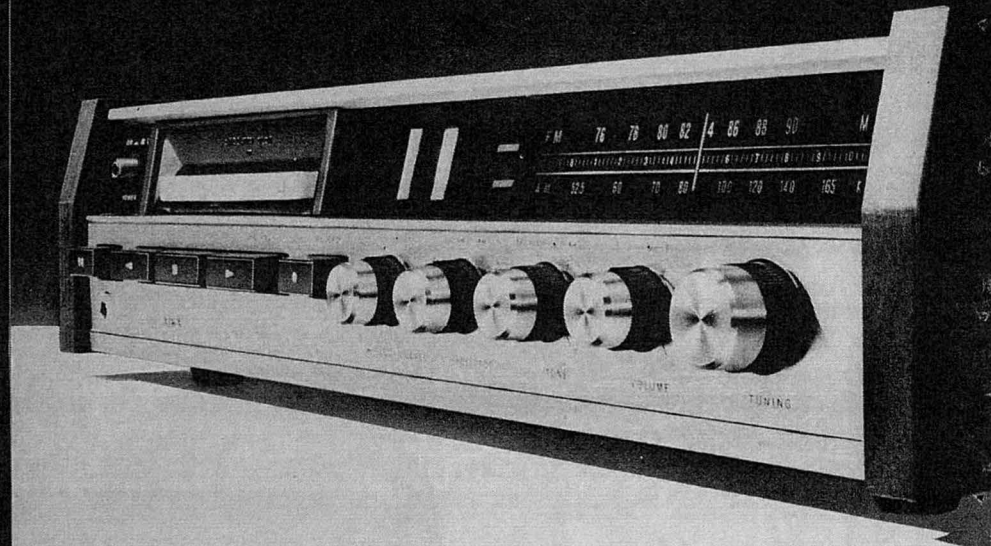
クリューランド管弦楽団の合奏の特徴は、まるでひとりの名人の演奏みたいに響く点にあるといえよう。それにまた、この管弦楽団の音はアメリカのマンモス交響楽団にありがちなはでなケバケバしいものと反対に、落ちついた淡いものになっている。もちろん、いろんな楽器の音一つ一つをとれば、金管や木管はそれらしく、弦楽器はそれぞれの特徴でよく鳴っているのだが、しかし全体としては、どちらかというとモノクローム（単彩二色）に感じられる。烈しい色彩の交錯があり、対比があるというよりも、明と暗、濃と淡の対照が根本になっているのである。墨絵とまではいわないが、色彩の豊麗よりは、むしろ線の躍動が優位である。

これは、また指揮者ジョージ・セルの特徴にはかならない。この管弦楽団のりっぱさがジョージ・セルのおかげでつくりあげられたものだということは、また、

カセット時代をリードする——アイワ

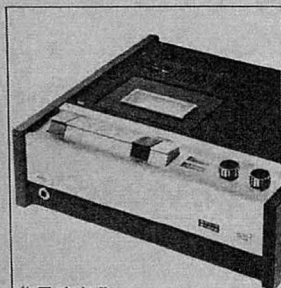


総合アンプのイメージを変えたアイワTPR-2001



新発売

FMステレオ放送を聞きながらカセットに直接録音



“最高級”
ステレオ・カセット・デッキ
TP-1009 正価¥29,800

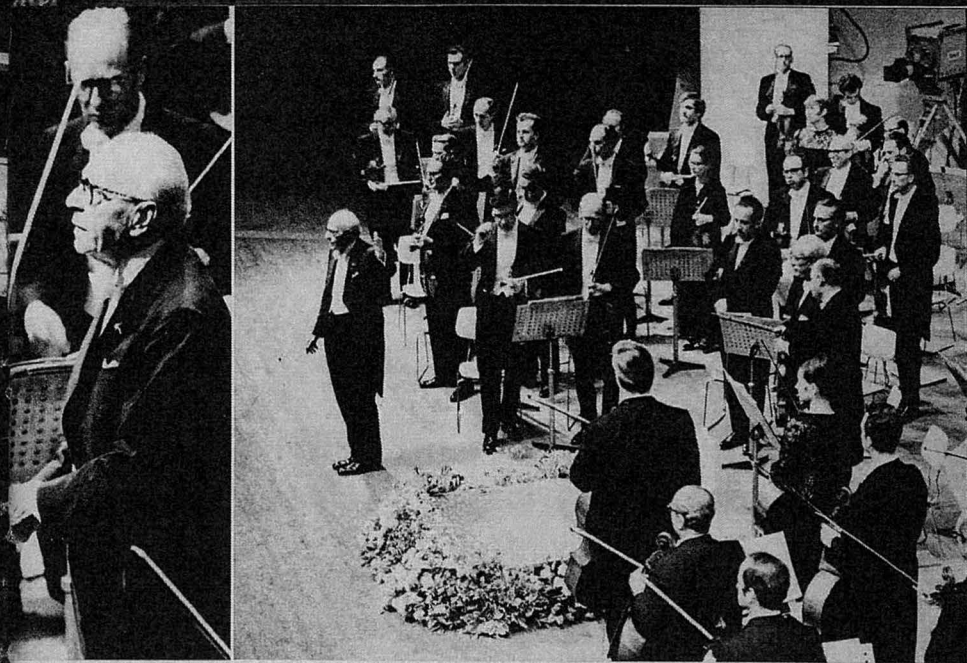
- カセットレコーダとFM/AMステレオ総合アンプを組合せた画期的な製品。
- FMステレオを聞きながら直接録音
勿論、レコードプレーヤー、テープレコーダからの録音もワンタッチで可能です。
- 大出力高感度総合アンプ
チューナー、アンプにはすべてシリコン・トランジスタを採用。SEPP・OTL・ITL回路で高出力40W、しかも低歪率です。そしてFMフロントエンドは2μV(1HF)と高感度です。
- カセット・レコーダはスタール方式
カセットを挿入すると演奏開始、終了すると自動的に飛びだして停止するスタール方式採用の高級メカです。しかもサーボモータ使用で安定度は抜群です。

主な規格
(チューナー部)
■感度:FM2μV AM300μV/m(1HF) ■アンテナ:FM300/75ΩAM
バーアンテナ内蔵 ■MPXセパレーション:36dB以上
(テレコセクション)
■方式:カセット・ステレオレコーダ・スタール方式 ■ワウフラ
ッター:0.28%以下 ■周波数特性:40-15,000Hz
(オーディオ・オセクション)
■方式:準コンプリメントリ SEPP・ITL ■出力:純全40W
■歪率:0.3%以下(20Watt RMS) ■周波数特性:30-50,000Hz
(端子)
■入力:PHONO(MAG) MIC AUX DIN ■出力:PREOUT DIN SP

TPR-2001 正価¥57,500

AIWA®

アイワ株式会社 東京都千代田区外神田 5-2-3 TEL.(03)833-1531 資料も宣伝課R係まで(〒101)



左=満場の聴衆の熱狂的な拍手にこたえるセル 右=自分が手塩にかけて作ったオーケストラだけに愛情も特別だ

セルは一体にテンポをおそ目にとり、この点では、自分が十九世紀の中欧出身の音楽家の系譜に属することをはっきり示しているのだが、その中にはまた、音楽から一切のよけいな装飾性をとりぞいてしまったような厳しさがあつた。そういう点で彼はクレメンベラーに近いものがあるのだが、クレメンベラーの巨怪さのかわりに厳密さ、正確さへの追求があり、これは音楽に対するもつとつとと現代的なアプローチである。

これほどの名指揮者でも、完全というわけにはいかないのは、超人でない以上、あたりまえのことである。セルには厳しさと明確さはあるけれども詩味、優しい魅惑といったものが少なくとも表面にはあまり出てこない。

ウェーバーの《オベロン》序曲など、欠点一つない演奏でありながら幻想の魅力と暖かさは感じさせない。それからシベリウスの第二交響曲に至っては、大変な名演だったが、名演であればあるほど逆に作品そのものの精神的な内容の貧しさはつきり出てしまう結果になるのだ。私はこの曲を、今度ほど駄作だと思つたことはない。

セルは聴衆の長い熱狂的な拍手にこたえて、律義にアンコールをしていたが、そういう時彼はドヴォルザークの《スラヴ舞曲》などやっていたが、これにもまた大変りっぱな演奏で、それだけにいかにも折り目正しく礼装した人物が田舎娘を相手に踊っているみたいで、私はききながらほとほと持てあまして、セルのような人物がシベリウスとかドヴォルザーク

にくどくどかに魅力を感じるといふのが、人間のおもしろいところかも知れないのである。これはど厳密な人が自分と正反対のものに惹かれるのだ。

こういった中で、私がいちばん熱烈な興味で聞き通したのは、シェリマンの第四交響曲である。これはシベリウスや何かとは逆で、本当にすばらしい音楽を含みながら作品としては欠点も少ないものだが、こういう曲を相手に、セルは全力を出しきっている感があり、私はとても打たれた。私は実はその二日ほど前カラヤン・ベルリン・フィルの演奏会と同じ曲をきいていたのだ。それはものすごい迫力の演奏だったが、それはきくと、カラヤンのそれがどんなに複雑なものだったかが痛感されてくるのである。

あのカラヤンの演奏には、実にいろいろなものが詰めこまれていた。まるで、世界と同じくらい、数えあげることでもできないほどのたくさんの種類のものがぎっしりつめてこまれていたのだという想いが、いまこの小文を書いていると、圧倒的な勢いでふき上げてくるのである。